

長崎県地域づくりネットワーク協議会 加入決定

先日より加入申請しておりました長崎県地域づくりネットワーク協議会への加入決定通知が先日届き、正式に会員となりました。

これで長崎県99団体のうちの壱岐市の会員が6団体になり、全国からの地域づくりに関する情報の入手、発信が可能になりました。壱岐市の広報活動に貢献できるものと期待しております。

また、来年度は第38回地域づくり団体全国研修交流会長崎大会が開催予定(今年度開催予定がコロナのために1年延期)であり、壱岐市では第10分科会開催予定です。

わたまち協においても全面協力体制で参加いたします。

<<<募集>>>

- 1.鬼の足跡内の漂着ゴミの回収作業、10人
- 2.南触通学路高枝伐採作業 20人
- 3.小学校前花壇整備 20人

※次の役員会で実施日など具体案が決まりますのでその後、詳細は正式にお知らせします。



<<<お知らせ>>>

12月から渡良地区に移動型スーパーが回ってきます。巡回地区、時間など検討中です。ご期待ください。

11月の事務局行事

- ◎11月2日役員会
- ◎11月7日原子力防災訓練
- ◎11月10日まちづくり協議会
- ◎11月21日～23日防災士講習会
- ◎11月27日(ボランティアの集い)
- ◎協議会イベント参加交通費など精算支払い(9月末までの分)
- ◎部会事業ごと具体的計画策定
- ◎第3号広報誌原稿作成



「防災士」とは

防災士とは「“自助”“共助”“協働”を原則とし“公助”との連携充実につとめて、社会の様々な場で**減災**と社会の**防災力**向上のための活動が期待され、そのために十分な意識・知識・技能を修得したことを日本防災士機構が認証した人です。

2020年(令和2年)9月末現在で19万7895人がその資格を取得しています。

長崎県では1,789人 壱岐市で28人 渡良地区で2人が有資格者です。

防災士の基本理念

1.自助

自分の命は自分で守る。

自分の安全は自分で守るのが防災の基本です。災害時に命を失ったり、大けがをしたら家族や隣人を助けたり、防災士としての活動をすることもできません。まず、自分の身を守るために日頃から身の回りの備えを行い、防災・減災に関する知識と技能を習得し、絶えずスキルアップに努めます。

2.共助

地域・職場で助け合い、被害拡大を防ぐ

災害の規模が大きければ大きいほど、消防、警察などの公的な救援活動が十分に機能するまでには一定の時間がかかります。そこで発災直後における初期消火、避難誘導、避難所開設などを住民自身の手で行うために、地域や職場の人たちと協力して、災害への備えや防災訓練を進めます。防災士は、そのための声かけ役となり、リーダーシップを発揮します。

3.協働

市民、企業、自治体、防災機関等が協力して活動する。

日頃から、行政をはじめ防災・減災に関わる多様な機関、団体、NPOなどと密接に連携し、防災訓練等の活動を通じて、お互いに顔の見える関係をつくり上げ、「災害に強いまちづくり」をすすめます。また、大規模災害が発生した際には、それぞれが可能な範囲で被災地救援・支援活動に取り組みます。

<<わたまち協の取り組み>>

この度、協議会でも渡良あんぜん部会の所管で11月21日から23日までの3日間、東彼杵町で長崎県危機管理課主催で開催される防災士取得講習に3名の人が受講されます。現在、渡良地区においても自主防災組織が編成されており、それらを有効に活用するためにはリーダーとなる防災士の養成が必要となっております。先般行いました皆様方のアンケートにも避難訓練などの必要性が求められており、わたまち協としても「渡良あんぜん部会」を中心に、今後発生すると思われる災害に対応すべく避難所の確保、避難誘導などの実践に取り組んで参りますので皆様のご理解とご協力のほど、よろしくお願ひします。